

平成20年度

第1回

(地域別研修)

南東欧地域

農業協働セクターの連携・活性化による

農産物市場経済強化

実施要領

平成20年9月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

Japan International Cooperation Agency

目 次

1. コース基本情報	1
2. コース目的	1
3. 到達目標	1
4. 研修プログラム	1
5. 研修員参加資格要件	2
6. 研修実施体制	3
7. 研修の評価	4
8. 研修付帯プログラム	4
9. 主な宿泊場所	5
10. その他	5

付属資料

- 付表 1 研修員の業務関連情報
- 付表 2 コースカリキュラム (案)
- 付表 3 平成 20 年度日程表 (案)
- 付表 4 年度別受入実績表

1. コース基本情報

(1) コース名

和文：(地域別) 南東欧地域農業協働セクターの連携・活性化による農産物市場経済強化

英文：Region Focused Training Program on “Strengthening of Agricultural Market Economies through Enhanced Collaboration Sectors in Southeast European Countries”

(2) 受入期間

平成 20 年 9 月 7 日 (日) ～ 10 月 25 日 (土)

(3) 技術研修期間

平成 20 年 9 月 16 日 (火) ～ 10 月 24 日 (金)

(4) 受入人数、割当国

受入人数：4 名

割当国：アルバニア (3)、クロアチア、マケドニア旧ユーゴスラビア、ボスニア・ヘルツェゴビナ (下線：受入国)

2. コース目的

農業協働セクターの連携・活性化による農産物市場経済を強化するためのガイドライン案が作成される。

3. 到達目標

- (1) 日本における農山漁村の現状・課題を説明できる。
- (2) 日本を含む世界の農産物の生産・流通および貿易システムを説明できる。
- (3) 農産物の市場経済対応における協働セクターの活動を説明できる。
- (4) 自国での農業分野における協働セクターによる農産物市場対応が可能な行動計画を策定できる。

4. 研修プログラム

(1) 研修類型：課題解決促進型

ア) 本邦研修実施前

「初期計画書(Inception Report)」の作成

研修の主題にかかる所属組織の課題やそれに対する現在の組織としての対策・取組みをまとめ、計画書の内容は本邦でのコース開始時に発表する。

イ) 本邦研修終了時

「中間計画書(Interim Report)」の作成

研修で学んだ知識や技術等を基に活動計画(案)を作成し、コース終盤に発表する。

ウ) 帰国後の事後活動

「最終計画書(Final Report)」の作成

研修員は帰国後、中間計画書に書かれた活動計画(案)を所属組織に報告、関係者と共有し、最終的な活動計画をまとめ、帰国後3ヶ月以内にJICA帯広に提出する。JICA帯広は同計画書を関係者と共有のうえ、次年度以降に実施される研修に内容をフィードバックし、必要に応じフォローアップを検討する。

(2) 使用言語：英語

(3) コースカリキュラム（付表－2参照）

5. 研修員参加資格要件

当該コース募集要項記載の条件

- (1) 中央ないしは地方政府、協同組合の職員で、農産物生産流通に関して3年以上の経験を有する者

各コース資格要件

- (1) 大学卒業者または同等の学力を有する者
- (2) 所定の手続により割当国政府から推薦されていること
- (3) TOEFL CBT 200点（PBT 578点）以上に相当する英語能力を有すること
- (4) 心身ともに健康なこと
- (5) 軍隊に服役していないこと

6. 研修実施体制

本コースは、コースリーダーの助言のもと、独立行政法人国際協力機構帯広国際センター（以下 JICA 帯広）が計画するコースの実施に関する業務を財団法人日本国際協力センター（以下 JICE）に委託し、関係諸機関の協力により運営する。具体的業務分担は次のとおり。

(1) JICA 帯広

- ア. 実施計画書作成（コース目的、到達目標、期間など）
- イ. 評価
- ウ. 実施予算の執行管理
- エ. 募集要項および実施要領等の作成
- オ. その他

(2) JICE

- ア. 日程表の調整・作成
- イ. 講師、視察先等への連絡・確認
- ウ. テキスト、資料等の手配
- エ. その他

(3) コースリーダー

研修の計画、実施、評価の全般にわたる助言等

(4) 研修監理員

研修期間中、(財)日本国際協力センター（JICE）所属の研修監理員を配置する。

- ア. 関係者間の連絡調整
- イ. 通訳・翻訳
- ウ. その他

7. 研修の評価

(1) 評価の目的

コースの到達目標（1頁参照）に基づき、研修成果の測定・分析を通じてコース終了時に当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本コースの質的改善を図る。

(2) 評価の方法

ア. コースリーダー等による到達目標の達成度把握

イ. 研修員が提出する質問票による評価

ウ. JICAによる評価

(3) 評価会

研修終了時に質問票の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

(4) 改善検討会

研修員帰国後に、評価結果に基づき、JICA 帯広、コースリーダー、JICE、講師等が参加し、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度以降のコース改善に向けて対応方針を検討する。

8. 研修付帯プログラム

(1) ブリーフィング

来日直後に帯広国際センター（以下 OBIC : Obihiro International Center）で実施する。JICA 業務およびコース概要の説明、研修員登録、旅券・査証の有効期間の確認、支給される諸手当の説明のほか、日常生活を送る上での諸注意等を行う。

(2) ジェネラルオリエンテーション

OBIC で実施し、日本の社会・歴史・文化・政治・経済・教育・行政などを紹介する。

(3) 日本語講習

研修員の日常生活および国際交流のため、簡単な日常会話程度の語学力修得を目的として10時間の日本語講習を実施する。

付帯プログラム日程（予定）

日 程	内 容
9月8日（月）	ブリーフィング
9月9日（火） 午前 午後	ジェネラルオリエンテーション ブリーフィング
9月10日（水）	ジェネラルオリエンテーション
9月11日（木）	日本語講習
9月12日（金）	日本語講習

9. 主な宿泊場所

帯広国際センター（OBIC）

所在地：〒080-2470 北海道帯広市西 20 条南 6 丁目 1 番地 2

Tel (0155) 35-2001 Fax (0155) 35-2213

10. その他

(1) 修了証書

研修を修了した研修員に JICA から修了証書を授与する。

(2) 研修員の待遇

ア. 入国資格

技術研修を受けるために来日する者は研修査証を取得し、滞在中は日本国法規の適用を受ける。

イ. 滞在費

JICA 規程に基づき研修を受けるために必要な手当が支給される。

(3) 国際理解教育

国際理解教育の支援のため、本コースに地域の小中学校や住民との相互理解のためのプログラムが一部含まれている。

以上

平成20年度 南東欧地域農業協働セクターの連携・活性化による農産物市場経済強化コース研修カリキュラム(案)

		研修項目						時間配分(%)
単元目標	課題	講義		視察・実習	討論			
内容・課題	1. 日本における農山漁村の現状・課題を説明できる	①日本の農山漁村における社会的・経済的な現状・課題	日本におけるフード・システムの展開 帯広畜産大学 金山教授	0.5			9	
			日本における農業・農村整備事業の経緯 佐々木コースリーダー	0.5				
		②社会資本整備の実態	農村地域の社会資本整備の現状 北海道大学 北倉教授	0.5				
			補助金と金融制度の概要 帯広畜産大学 澤田教授	0.5				
	2. 日本を含む世界の農産物の生産・流通および貿易システムを説明できる。	①日本を含む世界の農産物の流通機構	EPA/FTAの利点と課題	佐々木コースリーダー	0.5	生鮮食品の流通の実態(ダイイチ)	0.5	39
			EPA/FTA時代の生き残り戦略	佐々木コースリーダー	0.5			
			農産物の流通機構と支援政策	帯広畜産大学 仙北谷准教授	0.5	生鮮食品の流通の実態(ダイイチ)	0.5	
			野菜流通の現状と課題	酪農学園大学 尾崎教授	0.5	市場流通情報の収集と配信((社)全国生鮮食料品流通情報センター)	0.5	
		②生産資材の流通機構	生産者団体の役割(農協による経済事業)	JA帯広市川西	0.5	農畜産物のトラック輸送(隼北海道)	0.5	
			十勝の農産物の物流の現状	ホクレン 長内氏	0.5	十勝の農産物の鉄道輸送(JR北海道)	0.5	
						京都市中央卸売市場	0.5	
						生鮮食品の市場(帯広地方卸売市場)	0.5	
③価格形成の現状・課題		農業生産資材の流通と価格形成制度	北海道大学 長南教授	0.5				
		農畜産物価格および営農にかかわる情報の流れ・種類	帯広畜産大学 樋口教授	0.5				
					大田市場	0.5		
					農協事業による生産出荷の利点・弱点(細野ファーム)	0.5		
			個人事業による生産出荷の利点・弱点(野矢農場)	0.5				
3. 農産物の市場経済対応における協働セクターの活動を説明できる	①協働活動の現状・課題	欧州と日本の農業協同組合の比較	三重大学 石田教授	0.5	地産地消運動への取組(JAめむるファーマーズマーケット)	0.5	26	
		帯広の歴史と農業の概要、農家を取り巻く行政組織と生産者団体	十勝毎日新聞社 東條氏	0.5				
		消費者団体による組合活動	北海道生活協同組合連合会	0.5				
	②社会関係資本(信頼醸成、安全網の形成など)・営農支援システム	生産者団体の役割(農協による信用事業)	JA帯広市川西	0.5	農協の販売関連施設~川西長いも調整施設等	0.5		
		生産者団体の役割(農協による営農指導)	JA帯広市川西	0.5				
		生産者団体の役割(農協による加工事業)	JA士幌町 丸山氏	0.5	農協主導型マーケティング手法(JA士幌町)	0.5		
	③農業情報共有システム/技術開発システム	北海道における営農支援システム	北海道地域農業研究所 黒澤氏	0.5				
		農業情報共有システム/技術開発システム	十勝農協連 福井氏	0.5	小売業界によるトレーサビリティへの取組み	0.5		
4. 自国での農業分野における協働セクターによる農産物市場対応が可能な行動計画を策定できる	①南東欧諸国での市場経済化と農業構造	南東欧諸国の市場経済化と農業構造	明治学院大学 阿部教授	1			26	
		②自国での課題分析			インセプションレポート発表	0.5		
	③所属部署の課題解決に関するインタビューレポートの作成					インタビューレポート・プレゼンテーション資料作成		0.5
						課題解決ワークショップ①(レポートガイダンス) 佐々木コースリーダー		0.5
						課題解決ワークショップ②(課題提起) 北海道大学 長南教授		0.5
						課題解決ワークショップ③ 三重大学 石田教授/帯広畜産大学 和田助手		0.5
						課題解決ワークショップ④(レポート・プレゼンテーション個別指導) 佐々木コースリーダー		0.5
				インタビューレポート発表準備	0.5			
				インタビューレポート発表	0.5			
時間配分(%)				48	39	13	100	

平成20年度 「南東欧地域農業協働セクターの連携・活性化による農産物市場経済強化」
コース研修日程表(案)

月日	曜日	時間		担当者	受入機関(所属)	実施場所	
9/7	日			来日			
9/8	月			ブリーフィング			
9/9	火			ジェネラルオリエンテーション	(社)北方圏センター	帯広国際センター	
9/10	水			ジェネラルオリエンテーション			
9/11	木			日本語研修			
9/12	金			日本語研修			
9/13	土			休日			
9/14	日			休日			
9/15	月			休日(敬老の日)			
9/16	火	9:00-9:30		市長表敬		帯広市	帯広市役所
		13:00-14:00		コースオリエンテーション	佐々木 市夫	帯広畜産大学	帯広国際センター
		14:00-16:30		ジョブレポート発表会			帯広国際センター
		16:30-17:00		懇親会			帯広国際センター
9/17	水	10:00-12:00	講義	日本におけるフード・システムの展開	金山 紀久	帯広畜産大学	帯広国際センター
		13:30-15:30	講義	野菜流通の現状と課題	尾崎 亨	酪農学園大学	帯広国際センター
9/18	木	10:00-12:00	講義	補助金と金融制度の概要	澤田 学	帯広畜産大学	帯広国際センター
		14:00-16:00	講義	北海道における営農支援システム	黒澤 不二男	(社)北海道地域農業研究所	帯広国際センター
9/19	金	10:00-12:00	講義	帯広の歴史と農業の概要、農家を取り巻く行政組織と生産者団体	東條 隼士	十勝毎日新聞社	帯広国際センター
		14:00-16:00	講義	農村地域の社会資本整備の現状	北倉 公彦	北海学園大学	帯広国際センター
9/20	土			休日			
9/21	日			休日			
9/22	月	10:00-12:00		農協事業による生産出荷の利点・弱点	細野 武美	細野ファーム	細野ファーム
		14:00-16:00	見学	個人事業による生産出荷の利点・弱点	野矢 敏章	野矢農場	野矢農場
9/23	火			祝日(秋分の日)			
9/24	水	10:00-12:00	講義	日本における農業・農村整備事業の経緯	佐々木 市夫	帯広畜産大学	帯広国際センター
		13:30-16:30	講義	課題解決ワークショップ①(レポートガイダンス)			
9/25	木	10:00-12:00	講義	農業生産資材の流通と価格形成制度	長南 史男	北海道大学	帯広国際センター
		13:30-16:30	討議	課題解決ワークショップ②(課題提起)			
9/26	金			学校訪問			
9/27	土			休日			
9/28	日			休日			
9/29	月	10:00-12:00	講義	生産者団体の役割(農協による経済事業)	遠藤 広行	JA帯広市川西	JA帯広市川西
		13:00-15:30	見学	農協の販売関連施設~川西長いも調整施設等	常田 所長		別府事業所
9/30	火	10:00-12:00	講義	生産者団体の役割(農協による加工事業)	丸山 和則	JA士幌町	JA士幌町
		14:00-16:00	見学	農協主導型マーケティング手法			
10/1	水	10:00-12:00	講義	生産者団体の役割(農協による信用事業)	加藤 隆	JA帯広市川西	JA帯広市川西
		13:00-15:00	講義	生産者団体の役割(農協による営農指導)	遠藤 広行		
10/2	木	10:00-12:00	講義	欧州と日本の農業協同組合の比較	石田 正昭	三重大学	帯広国際センター
		13:30-16:30	討議	課題解決ワークショップ③	石田 正昭	三重大学	
					和田 大輔	帯広畜産大学	
10/3	金	10:00-12:00	見学	地産地消運動への取り組み 芽室ファーマーズマーケット「愛菜屋」視察		JAめむろ ファーマーズマーケット	
		14:00-16:00	講義	農業情報システムの役割	福井 悟司	十勝農協連	十勝農協連農業情報センター
10/4	土			休日			
10/5	日			休日			
10/6	月			移動(帯広⇒京都)			
10/7	火	午前	見学	京都中央卸売市場			京都中央卸売市場
10/8	水		見学	未定			
10/9	木	10:00-12:00		移動(京都⇒東京)			
		14:00-16:00	見学	市場流通情報の収集と配信	野村 俊生	(社)全国生鮮食料品流通情報センター	全国生鮮食料品流通情報センター
10/10	金	10:00-15:30	講義	南東欧諸国の市場経済化と農業構造	阿部 望	明治学院大学	国際総合研修所
10/11	土	7:00-9:00	見学	大田市場		中央卸売市場大田市場	大田市場
			移動	移動(東京⇒帯広)			
10/12	日			休日			
10/13	月			体育の日			
10/14	火	10:00-15:00	講義	農産物の流通機構と支援政策	仙北谷 康	帯広畜産大学	帯広国際センター

付表-3

10/15	水	10:00-12:00	講義	EPA/FTAの利点と課題	佐々木 市夫		帯広国際センター
		13:00-15:00	講義	EPA/FTA時代の生き残り戦略			
10/16	木	5:30-10:00	見学	生鮮食品の市場（帯広地方卸売市場）	日下 和彦	帯広地方卸売市場株式会社	帯広地方卸売市場
		10:00-12:00	見学	生鮮食品の流通の実態（ダイイチ）	倉本 三千男	株式会社ダイイチ	株式会社ダイイチ白樺店
10/17	金	10:00-12:00	講義	課題解決ワークショップ④レポート・プレゼンテーション個別指導	佐々木 市夫	帯広畜産大学	帯広国際センター
		13:00-15:00	講義	レポート・プレゼンテーション資料作成			
10/18	土			休日			
10/19	日			休日			
10/20	月	10:00-12:00	講義	消費者団体による組合活動	未定		
		14:00-16:00	見学	小売業界によるトレーサビリティへの取り組み	未定		
10/21	火	10:00-12:00	講義	十勝の農産物の物流の現状		ホクレン帯広支所輸送課	帯広国際センター
		14:00-16:00	見学	農畜産品のトラック輸送（(株)北海運輸）	駒月 義勝	(株)北海運輸	(株)北海運輸
10/22	水	10:00-12:00	講義	農畜産物価格および営農にかかわる情報の流れ・種類	樋口 昭則	帯広畜産大学	帯広国際センター
		13:30-16:30	討議	課題解決ワークショップ⑤（プレゼンテーション作成のための総括）	樋口 昭則 稲村 裕文	帯広畜産大学 JA帯広大正 員外監事	
10/23	木	10:00-12:00	見学	十勝の農産物の鉄道輸送（JR北海道）		ホクレン帯広支所輸送課	JR貨物駅
				レポート発表会準備			
10/24	金			評価会		国際協力機構帯広国際センター	帯広国際センター
		14:00-16:30		レポート発表会	佐々木 市夫	帯広畜産大学	
				閉講式、閉講パーティ		国際協力機構帯広国際センター	

年度別受入実績表

1. 応募／選定(受入)人数

	平成20年度	累計
	名	名
応募数	男性 4名 女性 1名	男性 4名 女性 1名
受入数	名	名
	男性 3名 女性 1名	男性 3名 女性 1名

2. 研修員の出身国

○男性 ●女性

国名		累計
アルバニア	○○○	3名
セルビア・モンテネグロ		0名
セルビア		0名
マケドニア旧ユーゴスラビア	●	1名
モルドバ		0名
ボスニア・ヘルツェゴビナ		0名
コソボ		0名
ウクライナ		0名
計	2ヶ国 4名	2ヶ国 4名